

# トピックス

## ■ 福島県沖を震源とする地震（2021年2月13日発生）の再保険金支払いは2,467億円に

2021年2月13日23時07分に福島県沖の深さ55kmでマグニチュード7.3の地震が発生しました。福島県国見町、相馬市、新地町及び宮城県蔵王町で震度6強の揺れに見舞われ、東北地方を中心に北海道から中国地方にかけて震度6弱から1を観測しました。2022年3月31日までに当社が支払った本地震の再保険金は2,467億円に及び、2016年の熊本地震に続いて過去3番目に再保険金の支払額が多い地震となりました。（「再保険金支払額上位20地震等」はP43をご覧ください。）

## ■ 日本損害保険代理業協会の各都道府県会長を前に池田常務が講演

一般社団法人日本損害保険代理業協会の全国会長懇談会後に行われたセミナー（2022年3月11日開催）において、常務取締役池田基己が「日本の地震保険制度～制度の強靭性を支える『再保険』のしくみ～」をテーマにオンラインで講演を行いました。一般的な地震保険の内容だけではなく「なぜ今の制度がこのような形となっているのか」といった制度創設から現在に至る経緯や、代理店の皆様に、安心して、自信をもってお客様に地震保険をおすすめいただくため「制度の強靭性を確保するために『再保険』を通じて政府がどのように関わっているか」といったことを、東日本大震災時の実例を交えながら紹介しました。



## ■ 大学講義への社員の派遣

当社の社員を講師として大学に派遣し、地震保険制度の理解の促進に努めています。2021年度は、6月に日本大学危機管理学部のオンデマンド講義、11月に東北大学経済学部のオンライン講義を担当し、大学で損害保険関連の科目を履修している学生に向けて地震保険制度の概要、再保険の仕組み及び地震保険における政府、損害保険会社、当社が果たす役割等を図解を交えながら解説しました。

## ■ 防災士研修センター及び令和防災研究所と合同勉強会を開催

2021年9月28日、都議会議事堂の談話室において防災士研修センター（代表取締役 玉田太郎）及び令和防災研究所（所長 青山やすし）と地震保険制度に関する合同勉強会を開催しました。当日は同センター及び研究所の役員の方々の他、都議会等の地方議会議員や東京商工会議所の幹部の方々に参加いただき、日本の地震リスクや地震保険の内容、及び制度の強靭性を支える再保険制度等について説明しました。



## 地震関連データの更新

地震調査研究推進本部の「地震発生可能性の長期評価」（長期評価）が更新されました（2022年1月13日現在）。

### 主要活断層の評価結果

2022年1月13日公表

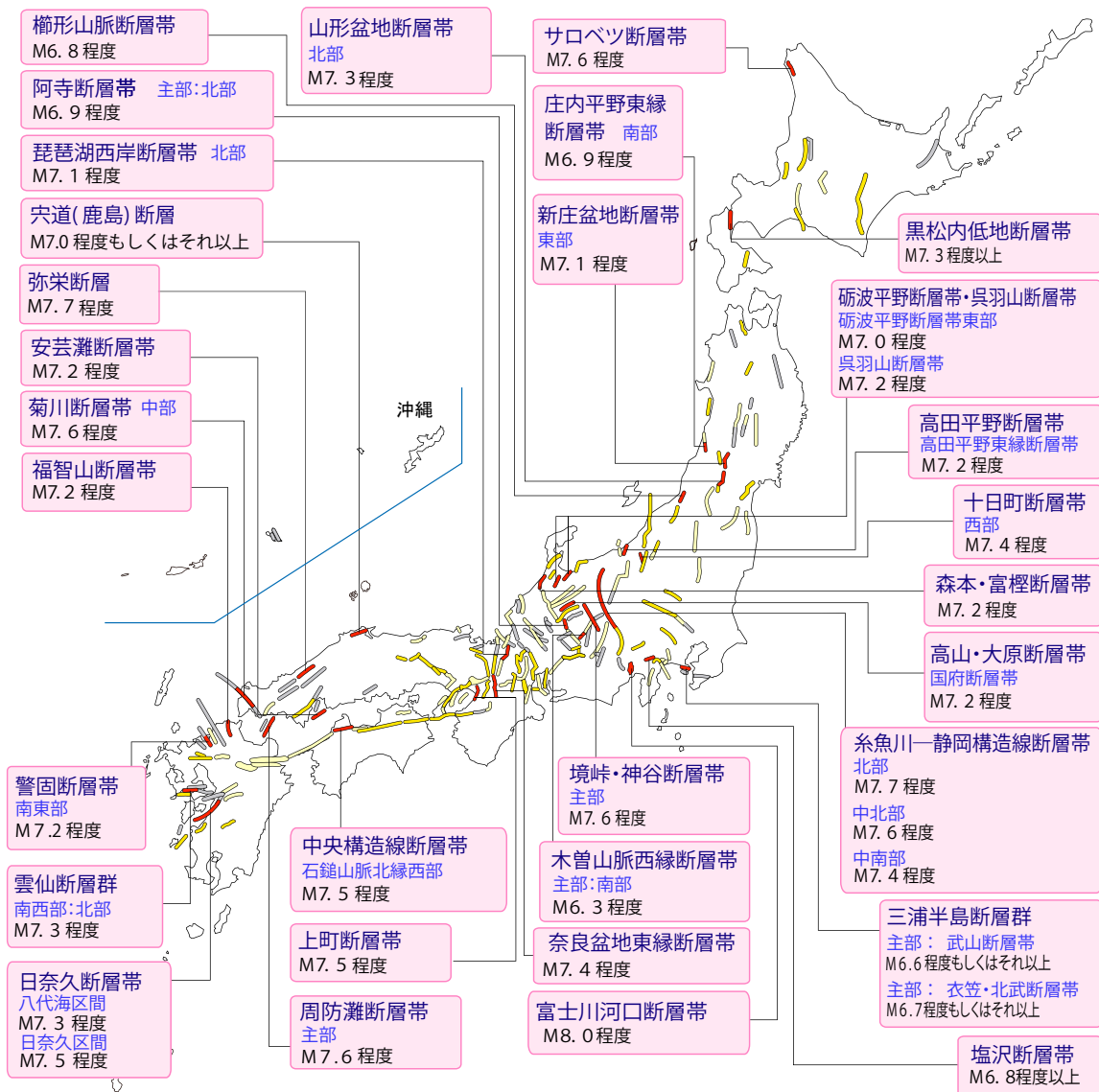
凡例：  
 Sランク(高い)：30年以内の地震発生確率が3%以上  
 Aランク(やや高い)：30年以内の地震発生確率が0.1~3%未満  
 Zランク：30年以内の地震発生確率が0.1%未満  
 (Zランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。)  
 Xランク：地震発生確率が不明(過去の地震のデータが少ないため、確率の評価が困難)

Sランクの活動区間を含む断層帯に吹き出しを付けた。  
 断層帯の名称  
 活動区間  
 地震規模(マグニチュード)

中央構造線断層帯  
 石鎚山脈北縁西部  
 M7.5程度

・ひとつの断層帯のうち、活動区間によってランクが異なる場合がある。  
 Sランク、Aランク、Zランク、Xランクのいずれも、すぐに地震が起こることが否定できない。  
 また、確率値が低いように見えても、決して地震が発生しないことを意味するものではない。  
 ・新たな知見が得られた場合には、地震発生確率の値は変わることがある。

ランクの算定基準日は2022年1月1日



○ ランク分けに関わらず、日本ではどの場所においても、地震による強い揺れに見舞われるおそれがあります。

(出典：地震調査研究推進本部ホームページ資料)

主な海溝型地震の評価結果(ランク)

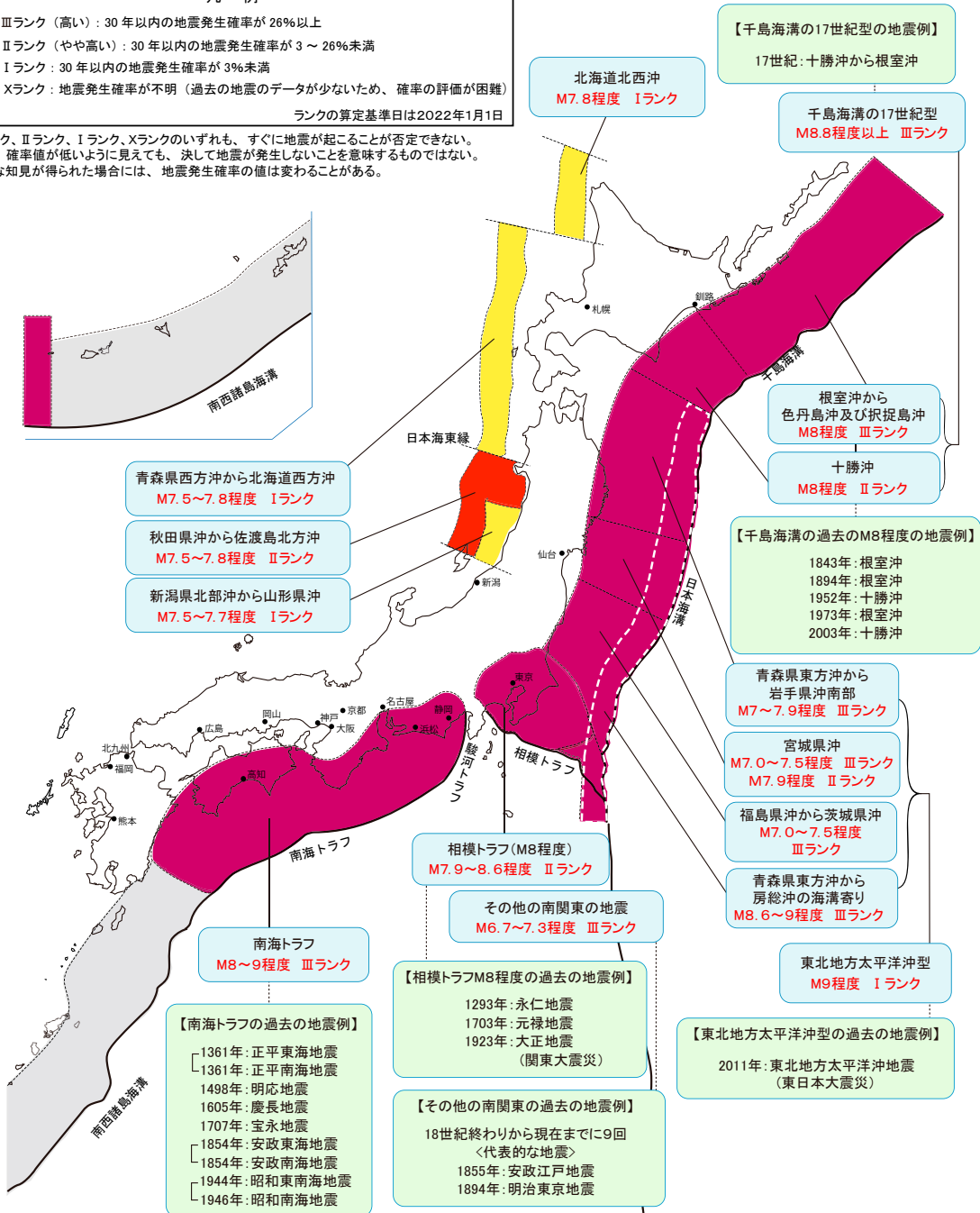
2022年1月13日公表

**凡例**

- Ⅲランク(高い): 30年以内の地震発生確率が26%以上
- Ⅱランク(やや高い): 30年以内の地震発生確率が3~26%未満
- Ⅰランク: 30年以内の地震発生確率が3%未満
- Xランク: 地震発生確率が不明(過去の地震のデータが少ないため、確率の評価が困難)

ランクの算定基準日は2022年1月1日

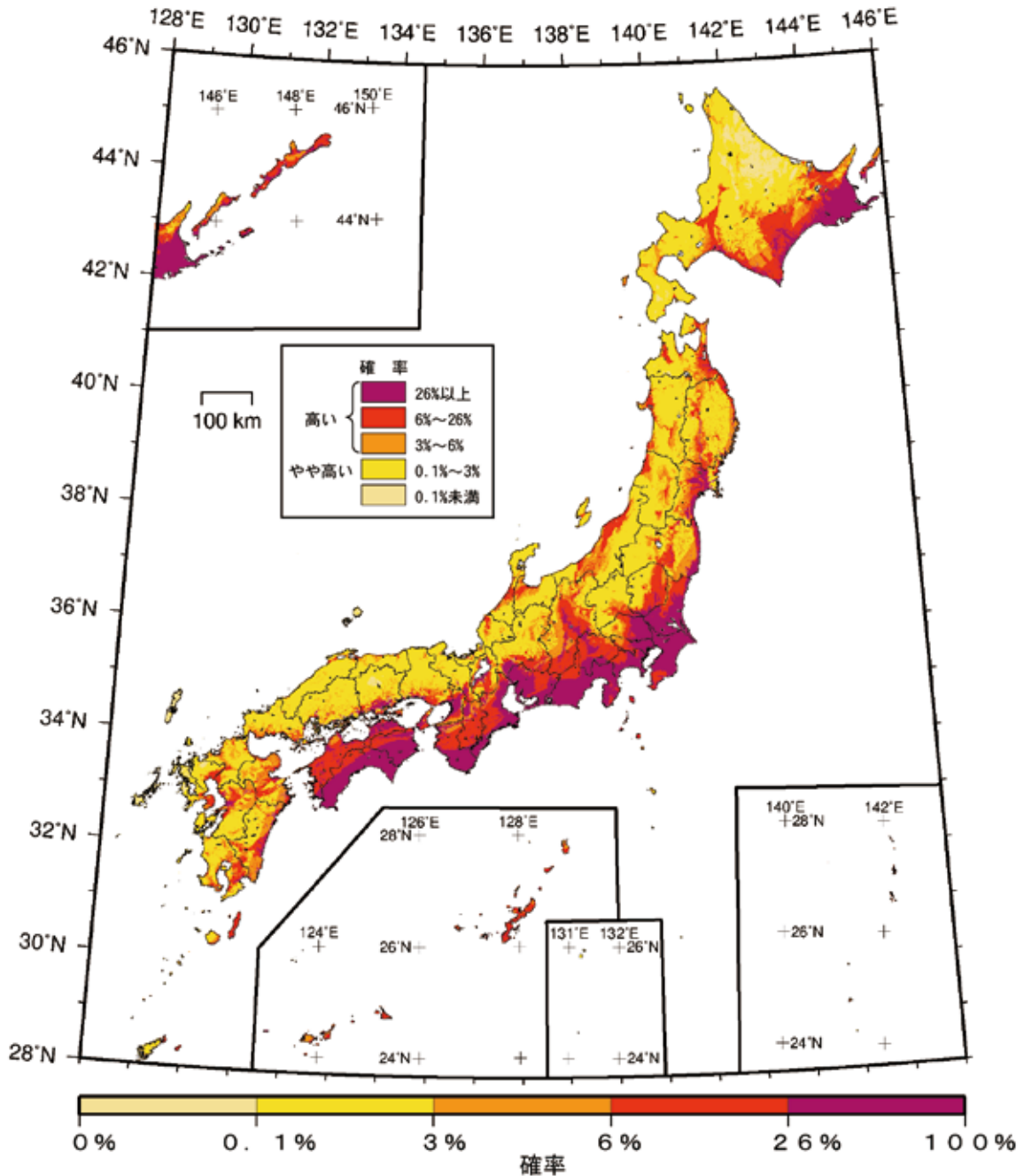
・Ⅲランク、Ⅱランク、Ⅰランク、Xランクのいずれも、すぐに地震が起こることが否定できない。  
 ・また、確率値が低いように見えても、決して地震が発生しないことを意味するものではない。  
 ・新たな知見が得られた場合には、地震発生確率の値は変わることがある。



○ ランク分けに関わらず、日本ではどの場所においても、地震による強い揺れに見舞われるおそれがあります。

(出典:地震調査研究推進本部ホームページ資料)

全国地震動予測地図2020年版(評価基準日 2020年1月1日)



(モデル計算条件により確率ゼロのメッシュは白色表示)

確率論的地震動予測地図：確率の分布

今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率  
(平均ケース・全地震)

(出典：地震調査研究推進本部ホームページ資料)